

事案名	防府市の事案（山口県35-2）
分類	生産・保有 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証言〔1〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（報告）」平成15年8月28日〔2〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>防府海軍通信学校（海軍兵学校併設）西側の山中にある防空壕の奥に保管された教育用の毒ガス（20kg程度）1個は、空襲により校舎が焼けたため、安全な防空壕へ保管換えされたものである。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元防府海軍通信学校機関兵の証言によると、「中尉の指示により、防府海軍通信学校（海軍兵学校併設）西側の山中にある防空壕の奥に、教育用の毒ガス（20kg程度）1個を保管した。空襲で校舎が焼けたので、安全な防空壕へ保管換えしたものである（埋めてはいない）。その後の処分状況は承知していない」としている〔1〕。</li> </ul> <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の結果、防空壕は7つあり、証言にあった防空壕の特定はできなかった。地下水又は防空壕の溜水の水質検査（ヒ素のみ）を5箇所を実施した。防空壕の溜水2検体については、ヒ素が0.019mg/L、0.011mg/Lで地下水環境基準を超えていたが、自然由来で見られる濃度である。なお、他の3検体については0.009mg/L以下であった〔2〕。</li> </ul>